

お湯の恵みを生かし、 名前負けしない市政を目指して

旧国名「加賀」ブランドの振興

加賀市は半世紀以上旧国名「加賀」を使い続けており、ようやく名前負けしない自信がついてまいりました。全国には旧国名を名乗る地域が数多くあり、本市と同じような問題意識を抱えておられることと思われまますから、「(仮称)名前負けしない市政を考える会」でも提唱したいと思っております。

本市域は山岳部から海岸線に至る大聖寺川、動橋川の全流域をカバーする旧大聖寺藩十萬石の領域とほぼ重なっており、自給自足的な地域経営がなされてきた藩政を反映して、多くの歴史・文化資源、産業資源を保有する地域です。本市は、県外の観光客には加賀ブランドと重なってイメージされています。全国一の木地轆轤挽き物をは

じめとした山中漆器、伝統的手法により天然鴨を捕獲する片野鴨池の坂網罟、北前船主の屋敷などが集積するかつて日本一の大富豪村といわれた橋立地域および山村集落である加賀東谷地域の伝統的建造物群保存地区など、いずれも加賀ブランドのコアを形成しています。骨董価値の高い古九谷の産地をめぐり大聖寺川上流の九谷説と九州有田説が論争されています。

東京国立博物館は「伊万里焼・古九谷様式」と有田説による表示をし、加賀市民のナショナルリズムを刺激し、国会でも取り上げられました。

本市としてはこれを逆手に取り、邪馬台国論争的に世間に着目される大きなテーマに発展させるため、誘客効果を狙ったシンポジウムなどを計画しています。

お湯の恵みと加賀温泉郷の地域づくり

温泉の恵みを受けた本市は、山中、山代、片山津などの複数の温泉地を抱え、観光に限らず地域ブランドをどう取るかといった問題が政策課題でしたが、これからは、観光施設の戦略的整備・更新、域内イベントのプログラム化など、従来地域ごとに行ってきた活動から脱却して本市全体の総合的取り組みとすることが課題であります。

域内総生産額で観光業を超える基幹産業である製造業は、漆器、温泉銘菓といった土産品に由来するものが多く、さらに輸送用機械部品製造は漆器生産技術から生まれたものでした。土産用食品から出る産業廃棄物を活用したバイオマス事業も検討されており、まさ



廃業旅館跡地に建設中の21世紀型の新温泉「片山津温泉館」

に本市はお湯の恵みにより発展してきました。しかし温泉に寄り掛かり過ぎて、ほかの観光資源を活用してこなかったと批判を受けています。このため、産業界も(社)加賀市観光交流機構を設立し、宿泊産業に限定せず全産業的取り組みを展開中です。

温泉入浴施設は地域住民の共同入浴施設というよりも、観光政策的な意味でもとらえられるようになっていきます。山代温泉古総湯がその代表例です。温泉旅館と地元商店街の協働により整備された山中温泉のゆげ街道の成功に触発され、山代温泉古総湯周辺の景観整備が地元住民からも強く希望されるようになりました。片山津温泉では

廃業旅館跡地に、柴山湯と白山が眺望できる新型の温泉施設を建設中です。平成24年春開業に向け地域住民一丸となって片山津温泉再生にまい進することとしており、柴山湯のラムサール条約登録湿地地化運動とともに、広告規制や風俗店の廃止などを含めた周辺地区の環境整備が不可欠となっています。

北陸新幹線全線開通と 越前加賀の連携

加賀温泉郷の入湯宿泊客数は400万人から200万人に減少しました。旅館数や営業マン、広告量の減少に伴い、トータルでの加賀温泉郷の宣伝力は大幅に低下し、特に若年層への知名度は相当



温泉旅館と地元商店街により整備された「山中温泉ゆげ街道」

低いと認識しています。加賀温泉郷の入湯客における東京圏の割合は1割にも満たない状況ですが、4000万人を超える東京圏は潜在需要と認識しています。平成26年度には北陸新幹線金沢暫定開業を控えています。そこで、財政資金を使用した観光宣伝においては、個別温泉名ではなく加賀温泉郷を前面に出した表現の工夫をするともに、温浴施設整備の話題提供やイベントの実施も、加賀温泉郷全体で戦略的に行う必要があります。このため本市が助成するものについても、加賀温泉郷のコンセプトで臨むこととしています。また、金沢駅においては、加賀市ブランドのアンテナショップを設置し、新幹線開業に向け情報収集しています。「観光客に来てもらう」ことから「観光客を迎えに行く」ことが必要と思っておりますから、新幹線の着発に合わせた二次交通サービスの確立を図ることとしています。



加賀市長
寺前秀一

本市の発展には、北陸新幹線の全線開通が最大課題であり、東京に加え、関西・中京地区とも高速鉄道で直結できる米原ルートが最も望ましいと考えています。大手旅行会社は、東京圏における「越前・

プロフィール

- ◆面積 306.00 km²
- ◆人口 7万2643人
- ◆世帯数 2万8679世帯

〔将来都市像〕大聖寺川・動橋川の流域はひとつ 私たちがつくる水と森のふるさと

〔まちの特徴〕石川県の南西端に位置し、東南部の山地を背に日本海に面する。大日山を源とする大聖寺川、動橋川が日本海・柴山湯へ注ぐ、水と森に恵まれた地域

〔市町村合併〕平成17年10月1日、加賀市、山中町の1市1町が対等合併(新設合併)

〔特産品〕輸送用機械器具、繊維製品

永平寺、瀧谷寺、吉崎御坊、戸田城聖生誕地、大聖寺山の下寺院群などの宗教文化資源を、「越前加賀宗教文化街道「祈りの道」として戦略的にルート化することなどを検討しています。

北陸新幹線全線開通が早期に実現されることを目指しています。



九谷焼、山中漆器、ナシ、ブドウ、地酒

〔観光〕加賀温泉郷(山代温泉、片山津温泉、山中温泉、山代温泉「古総湯」、越前加賀海岸国定公園、片野鴨池、鶴仙溪遊歩道(こおろぎ橋、あやとりはし)、県九谷焼美術館、九谷焼窯跡展示館、北前船の里資料館、中谷宇吉郎雪の科学館

〔イベント〕全国健勝マラソン日本海大会(4月)、山中漆器祭(5月)、山代温泉菖蒲湯まつり(6月)、山代大田楽・片山津温泉湯のまつり・ぐず焼まつり(8月)、山中節全国コンクール・十萬石まつり・山中温泉こいこい祭(9月)、御願(こんがん)神事(2月)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「選ばれ続けるまち」を目指して

はじめに

「福が生まれる」と書いて「ふっさ」と読みます。この、縁起が良い名前を持つ福生市は、都心から西へ約40kmに位置し、市の西側には多摩川が流れ、豊かな自然を有する奥多摩の山並みが近くに望めます。東側には米軍横田基地が位置し、地域の約3分の1を占めています。基地部分を除くと行政面積は6・92kmと狭い市ではありますが、JR青梅線、五日市線、八高線の3路線が走り、駅も5つあり、鉄道交通の便に恵まれたまちです。数多く運行されている東京行き直通電車を利用すれば新宿まで45分足らずで行けます。

異文化共生のまち

本市は2つの顔を持っています。

まず。本年度は本市の職員が登別市に、守山市の職員が本市に、登別市の職員が守山市に派遣され、それぞれ業務の最前線に立って奮闘しています。

本市での最大のイベントは本年度61回目を迎えた「福生七夕まつり」です。今年の七夕まつりには4日間で42万人を超える来場者がありました。8月4日に行われたオープニングセレモニーには登別市の小笠原春一市長、守山市の宮本和宏市長にもご出席いただき、「明るい日本をみんなで」「元気な日本をみんなで創造」と、3市がいつまでも仲良く、一緒に頑張ろうと各市長に短冊にメッセージを寄せいただきました。



色鮮やかな七夕まつりの竹飾り

1つは「アメリカを感じるまち」で

す。まだまだ海外の情報や輸入品も少なかったころ、本市は米軍横田基地を通じてアメリカからファッションや音楽など最新の文化が入ってくる地域でした。流行に敏感な人々が連日のように訪れ、そこからアメリカと日本文化が融合した独特の文化が生み出されました。その文化を求めて、多くの多感な若者が福生に集まり、「限りなく透明に近いブルー」の村上龍や山田詠美などの作家、また、故忌野清志郎をはじめとしたミュージシャンなど、多くのアーティストに愛されました。現在、横田基地沿いを走る国道16号線にはワシントンヤシが街路樹として植えられ、地域の商店街はドルが使える商店街としてテレビにも取り上げられました。ま

もう1つの顔は「日本の原風景を

感じるまち」です。横田基地とは反対側の多摩川、玉川上水が流れる本市の西側には、江戸幕府の奨励もあって始められた酒造業や、養蚕業を地場産業として発展したまちの原型があります。玉川上水やそこから引かれた分水はまちを潤し、2つの酒蔵をはじめとした古くからの屋敷や蔵が点在し、基地や駅周辺とは趣が異なっています。市を西から東へ、東から西へ横断するとまったく異なった世界を味わえます。異なる文化が共生するまちです。

本市を家に例えると、狭いながらも、奥多摩の緑の山々を望み、床の間がある座敷に、洋風のリビングルームを持ち、玄関から出るとすぐに都心といったところでしょうか。



ヤシの木が生える国道16号沿いの商店街

友好交流都市

本市は昭和45年に人口3万人の特例措置により市制を施行しました。「3万人都市」実現に向けて幹事役を務めた6市で交流を続けていきましたが、市町村合併を経て現在は3市(福生市、北海道登別市、滋賀県守山市)で「友好交流都市協定」を締結し、市制40周年を迎えた平成22年度からは、より一層の情報交換・親睦を深めるとともに、災害時に協力し合える職員づくりとして、職員派遣交流を行っています。

ご当地グルメ

今、全国でご当地グルメがブームとなっています。本市も商工会と連携して「基地のまち」の魅力溢れるグルメとして、アメリカを感じることで「福生ドッグ」を開発しました。市内にはハム工場が2社あり、ブランド豚を用いたハムなど、地域住民に非常に親しまれています。その地域資源を生かし、特別につくった直径23mm、長さ16cm(ふっさの語呂合わせと、国道16号を意識)のソーセージを使い、決してB級ではないという自負を持って、市内のパン屋さん、飲食店でそれぞれ特徴のあるホットドッグ「福生ドッグ」を提供しています。ネギ味噌をトッピングした和風があり、イタリア風あり、ドイツ風もあり、それぞれの味が楽しめます。和も洋も、これはまさに本市のご当地グルメといえます。

選ばれ続けるまち

平成22年度から第4期の総合計画がスタートしました。この計画では、誰もが未来に夢を持って、ずっとこのまちに住み続けたいと

思っていただけのように、さまざまな行政課題に対応しようとしています。しかし、厳しい財政状況、少子高齢化、人口の減少というトレンドの中においては、総合計画に示した施策・事業の重点化を図る必要があると考え、本年度から魅力あるまちづくりを進めるシティーセールスに取り組むことにいたしました。市内施設などを利用したテレビドラマや映画の撮影を

支援するロケーションサービス、電気自動車や電動アシスト付き自転車を活用しての観光事業「次世代モビリティ活用モデル事業」や前述の「福生ドッグ」もその一環です。これらの本市の魅力を再発見、あるいは創造し、発信するためにシティーセールス推進課を新たに設置して「訪れたい、住みたい、自慢したい」まち、皆さまに選ばれ続けるまちづくりを進めています。

プロフィール

- ◆ 面積 10・24km²
- ◆ 人口 5万9693人
- ◆ 世帯数 2万9011世帯

〔将来都市像〕このまちが好き 夢かなうまち 福生

〔まちの特徴〕米軍横田基地がある福生市は国際色豊かなまち。多摩川などの豊かな自然環境や交通の便にも恵まれ、住宅都市、商業都市として発展

〔観光〕ふっさ十景(玉川上水新堀橋付近、桜並木と多摩川、清岩院、熊川神社、神明社、みずくらい公園、文化の森、国道沿いの商店街、柳山公園、南稻荷神社付近)

〔イベント〕福生七夕まつり、ふっさ桜まつり、ほたる祭、福生ふれあいフェスティバル、インターナショナルフェアなど



福生市長 加藤育男



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「元気で笑顔あふれる まちづくり」を目指して

はじめに

平成16年2月1日に本巣町・真正町・糸貫町・根尾村が合併して誕生した本巣市は、岐阜県の西部のほぼ中央から北端に位置し、北は福井県と県境を、東は京都岐阜市と隣接しています。

人口約3万5000人、総面積約375km²と県下42市町村のうち9番目という広さですが、地形は南北に長く、市面積の80%を占める北部は96%が山林で、南部は濃尾平野に広がる農業地域となっています。

市の北部地域と南部地域では環境が大きく異なっており、都市部に近く、利便性も高い南部地域は、定住人口が増加している一方、北部地域は高齢化と人口の減少が進み、過疎対策が必要となっています。

す。このように、同じ市域の中でも過疎化と人口増が同時進行する、相反した環境を有しており、まさに、岐阜県あるいは日本の縮図を表していると言っても過言ではありません。

市の西端には、北部の山岳地帯から流れる大小河川のほとんどが合流する根尾川が南へ貫流しています。この河川をかんがい用水として利用する南部の肥沃な耕地からは、各種の農産物が豊富に生産されており、中でも、富有柿、イチゴは全国でも有数の産地です。また、花卉の生産も盛んで、特にセントポーリア、ミニバラは全国シェアの50%以上を占め、名古屋市内にも約38kmと近いことから都市近郊型の農業地帯となっています。

また、市内には、日本三大桜の一つで樹齢1500年を誇る国指

定天然記念物の淡墨桜をはじめ、明治24年に発生した濃尾大震災により上下6mの断層が生じた根尾谷断層や国指定重要無形民俗文化財の能郷の能狂言、真桑文楽など多くの歴史的文化的財にも恵まれています。

住みよさランキングNO.1

本市は、東洋経済新報社の2009年版、新「住みよさランキング」で日本一に選ばれました。

農業が盛んで、安心安全な食料品を手に入れられることや、大型商業施設が多く、日用品からブランド品の購入が市内でできること、さらに、近くに岐阜市、名古屋屋といった大都市があり、通勤圏としての利便性が非常に高く、若い層の転入者も多いことが評価されました。



樹齢1500年を誇る国指定天然記念物の「淡墨桜」

また、何より本市には、昔ながらの助け合いや、人の温もりにあふれた地域性や人間性が残っているところも高い評価を受けました。

市民協働による地域の自立

このように恵まれた環境にある本市も、近年、地方分権という大きな流れの中で、地方自らが道を開き、国などに頼ることなく自立していくことが求められています。厳しい財政状況にある中でも、

地方分権の流れは今後も加速し、地方は知恵と工夫でこの流れに対応していかなくてはなりません。

今後、少ない財源で市民ニーズに応え、市民サービスの向上を図っていくためには、より効率的で投資効果の高い行政運営が必要であるとともに、行政だけでなく、地域住民や企業などの参画を得た市民協働でのまちづくりが必要であると考えています。

こうした認識の下に、市民協働によるまちづくりを進めるため、地域座談会、企業懇談会を開催するとともに、市政の課題は現場にあり、その解決策もまた現場にあると考え、市民の皆さんとともに考える対話重視、現場主義により、「元気で笑顔あふれる本巣市づくり」に取り組んでいるところです。



国の重要無形民俗文化財の人形浄瑠璃「真桑文楽」

施策の3つの柱

こうしたまちづくりを実現するため、3つの基本方針を掲げ、具体的な取り組みを進めています。

- ◆ 第1の柱は、元気な里づくりです。農産物のブランド化や担い手の育成など農林業の振興や企業誘致などによる産業の振興、観光交流産業の育成などにより、活力とにぎわいのあるまちづくりを進めるとともに、NPOやボランティア団体、市民や企業との連携・協働によるまちづくりを進め、「元気な里づくり」を進めています。
- ◆ 第2の柱は、温もりのある里づくりです。地域の中で安心して子育てができ、高齢者が生きがいを持って元気に暮らせる健康づくりを進めるとともに、地域が一体となって、誰もが安全で安心して生活ができる「温もりのある里づくり」を進めています。
- ◆ 第3の柱は、うるおいのある快適な里づくりです。

森林や河川などの豊かな自然環境を守り、道路網の整備や上下水道などの生活環境基盤の整備を図るとともに、公共交通機関の充実、

教育環境の整備など「うるおいのある快適な里づくり」を進めています。

むすび

本市の良き伝統を生かせば、市民協働によるまちづくりが、これからもより多くの成果を生み出してくれるものと思っています。

「住みよさ日本一」の評価をこれからも実感できる魅力あるまちづくりを引き続き、市民協働で進め

プロフィール

- ◆ 面積 374.57km²
- ◆ 人口 3万5526人
- ◆ 世帯数 1万1477世帯

〔将来都市像〕自然と人が共生し、快適で「こころふれあうまち」

〔まちの特徴〕森林と溪流、田園景観からなる美しい自然環境と大都市との地理的優位性を兼ね備えたまち

〔市町村合併〕平成16年2月1日、本巣町、真正町、糸貫町、根尾村の3町1村が対等合併(新設合併)



本巣市長 藤原 勉



- 〔特産品〕富有柿、イチゴ、真桑うり、ミニバラ、セントポーリア、ベゴニア
- 〔観光〕淡墨桜、うすずみ温泉、長屋神社馬駆け祭り、真桑人形浄瑠璃、能郷の能・狂言、本巣市根尾谷地震断層観察館
- 〔イベント〕本巣市花とほたる祭り、根尾川花火大会、宗次郎淡墨桜コンサート、もとす織部祭り、ふれあいサマーフェスタ



たわわに実る「富有柿」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「五つ星の出雲市」の 実現を目指して

はじめに

出雲市は、平成17年3月に2市4町が新設合併して誕生しました。本年10月1日には斐川町を編入合併し、人口は17万人を超え、山陰



「出雲大社」：60年に一度の「平成の大遷宮」(平成25年には本殿遷座祭を迎える)

両県で3番目の都市となりました。本市は、企業誘致に力を注ぎ、優良企業の相次ぐ立地により、製造品出荷額が島根県の4割を占めています。また、生産力の高い出雲平野を中心に農業産出額が県全体の25%を占めるなど、農業・工業・商業各産業が調和した産業構造となっています。さらには、「出雲縁結び空港」をはじめ、河下港、山陰自動車道など環日本海交流を担う交通拠点も備え、新時代を開く産業集積地域として注目されています。

また、この地は「神話の国出雲」として全国に知られ、出雲大社、荒神谷遺跡、西谷墳墓群などの歴史・文化遺産や、日本海、宍道湖、斐伊川などの豊かな自然にも恵まれています。まさに、高い発展性を持つ魅力あふれる都市です。

出雲神話観光大国の創造

平成24年に編さん1300年を迎える古事記や出雲国風土記には、「国譲り神話」「国引き神話」といった出雲神話が壮大なスケールとロマンに満ちて描かれています。また、旧暦10月は、一般的には「神無月」ですが、この時期全国から八百万の神々が出雲に集まられ、男女の「縁結び」などについて会議をされることから、「神在月」と呼ばれています。

このように、出雲は神話の舞台であり、どこか日本の原風景を感じさせます。近年、市内各地のパワースポットでは、市内外から多くの若者の姿を見かけるようになりました。平成24年7月からは、古事記編さん1300年を記念した「神話博



ハッジやチラシなどでPRしている「大好き☆出雲!」のロゴ(全4種)

しまね(島根県主催)が県内各地で開催されます。その主会場となる出雲大社周辺では、神話の謎や魅力を映像や伝統芸能などで印象的に表現していきます。ぜひ、神話博を通じて、全国の皆さまに神々の物語が息づく出雲への関心を深めてもらいたいと思います。

そして、60年に1度という出雲大社の「平成の大遷宮」が進む中、平成25年5月には御本殿遷座祭がとり行われます。出雲大社御本殿は、日本最古様式の神社建築で国宝に指定されており、毎年多くの参拝客が訪れますが、特にこの年は、市を挙げてにぎわいを創出したいと考えています。

現在、県とともに、出雲大社大鳥居から勢溜までの門前町「神門通り」整備を進めています。これまで狭かった歩道を広くし、電線類の無電柱化や道路の美化、街灯の設置などを行い、歩行者と車が共存し、安心して楽しみながら歩ける道づくりに取り組んでいます。

ろです。これらは、住民ワークシヨップによる道路デザイン、景観

デザインの検討によって進めており、地元と行政とが一体となったまちづくりを実現することで、大社門前にふさわしい気品と風格を備えた景観にしたいと考えています。

さらに、一時は店舗数の減少で人通りがやや寂しくなっていた街並みに、近年新店舗が次々と開店し、にぎわいを見せるようになりました。本市でも「街なみ整備助成事業」により、住民のまちづくり協定の趣旨に沿った建物の新築改築などを支援し、出雲大社参詣道としての街並み形成を図っています。



出雲大社勢溜をスタートする「出雲駅伝」(平成23年10月10日 第23回大会より)

「出雲」の真のブランド化

出雲神話や出雲大社に代表されるように、「出雲」の地名は広く知られています。「出雲」は、まさしく全国に誇れるブランドと言ってもいいでしょう。しかしながら、私たち市民が、その魅力を十分に生かされていないのが実情です。「出雲」の真のブランド化とは、市民一人ひとりが魅力を認識し、「生まれよかつた、住んでよかつた」と、誇りと愛着の持てる出雲を創造することであり、市外の人も「行ってみたい、住んでみたい」と憧れる出雲にすることです。

毎年10月10日の体育の日、出雲路を舞台に「出雲全日本大学選抜駅伝競走」が開催されます。学生三大駅伝の一つとしてすっかり定着してきましたが、全国放送で「出雲駅伝」と呼ばれるようになったのは、ここ数年のことです。大会を多くの市民ボランティアが支え、発展させてきたことにより、全国へ「出雲」を発信し続けています。

また、本市に工場を持つ富士通が、斐川町との合併を機に、生産するすべてのノートパソコンを「出雲モデル」として販売を開始しまし

プロフィール

- ◆ 面積 624・12km²
- ◆ 人口 17万5467人
- ◆ 世帯数 5万9828世帯

〔将来都市像〕全国に誇れる都市・子どもたちや若者をはじめ、すべての市民が夢と希望を育てる「五つ星の出雲市」

〔まちの特徴〕古代日本国誕生のロマンに溢れる出雲神話のふるさと、豊かな出雲平野が広がる農業生産力の高い地域であるとともに各産業が調和した地域

〔市町村合併〕平成17年3月22日に出雲市・平田市・佐田町・多伎町・湖陵町・



出雲市長 長岡秀人



大社町が合併。平成23年10月1日には斐川町を編入合併
〔特産品〕出雲そば、ぶどう、柿、多伎いちじく、出西生薑、しじみ、あご野焼、十六島のり、出雲ぜんざい
〔観光〕出雲大社、国立公園日御碕、須佐神社、一畑薬師、荒神谷遺跡、西谷墳墓群、湯の川温泉
〔イベント〕出雲神話まつり、出雲全日本大学選抜駅伝競走(出雲駅伝)、出雲総合芸術文化祭、神在月出雲そばまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。